

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)ケアハウスふれあい移転改築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	---------------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.4 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.6	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4 スコア 3.1
グリーン購入法における特定調達品目やエコマーク商品を採用し非再生性資材の削減に配慮 解体時に容易に分別可能な工法や再利用可能なユニット部材の採用		内装材や給配管材に長寿命材を採用 階高や空間の形状にゆとりをもたせ将来の用途変更の可能性に配慮	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
LCCO2排出率=79%		省水型便器、自動水栓、泡沫水栓等が全水栓器具の過半を満たす	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 3
外来種の不導入や植栽条件の応じた緑地づくりをし生物環境の保全と創出に配慮		緑地や通路・ピロティを確保し暑熱環境に配慮 建物の高さや形状を工夫し敷地外への熱的な影響を低減	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 0.7	
福岡県福祉のまちづくり条例チェックリストの整備基準を満たしている		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.74 外構緑化指数 19.9 % 建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケアハウスふれあい移転改築工	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市小倉南区沼本町4	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	60 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年9月8日
敷地面積	4,766 m ²	作成者	三好 星空
建築面積	1,445 m ²	確認日	2021年9月9日
延床面積	3,800 m ²	確認者	定森 淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 79% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 79%

④上記+: 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

音環境	2.1
熱環境	2.0
光・視環境	3.2
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.4
耐用性	3.5
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.2
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.6
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.8
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 ・再生利用が可能な資材を多く採用し環境に配慮 ・更新・維持管理のしやすい設計に加え、耐震性にも優れた建物の計画		その他 特になし
Q1 室内環境 ・室に適した内装材や換気機器を採用により汚染物質を削減し空気質環境に配慮	Q2 サービス性能 ・内観パースを作成し建物全体のコンセプトや機能に配慮する取組み ・階高や空間の形状にゆとりを持たせ将来用途変更が可能	Q3 室外環境(敷地内) ・生態系に悪影響を及ぼす外来種の不採用や植栽条件に応じた緑地づくりにより緑地の質を確保
LR1 エネルギー ・BPI=0.70 ・BEI=0.74	LR2 資源・マテリアル ・省水型便器・自動水栓・泡沫水栓等の節水器具の採用 ・グリーン購入法における特定調達品目やEコマース商品を採用し非再生性資材の削減に配慮 ・解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なユニット部材の採用	LR3 敷地外環境 ・建物の高さや形状を工夫し敷地外への熱的な影響を低減する対策

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ケアハウスふれあい移転改築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質						2.8		
Q1 室内環境			0.40		-	2.8		
1 音環境		2.1	0.15	2.4	1.00	2.1		
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		1.8	0.40	2.6	0.40			
1 開口部遮音性能	-	3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	-	1.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音	-	1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.0	0.35	2.0	1.00	2.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 室温	-	3.0	0.38	3.0	1.00			
2 外皮性能	-	3.0	0.25	-	-			
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		3.2	0.25	3.3	1.00	3.2		
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	2.5%≦共用部昼光率、1.25%≦専有部昼光率	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口	-	-	-	-	-			
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御	-	2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	共用部照度: 500lx	4.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気環境		4.0	0.25	4.2	1.00	4.0		
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	内装材はF☆☆☆☆+VOC放散量の少ない建材を採用	5.0	1.00	5.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38			
1 換気量	必要換気量×1.4≦設計換気量	5.0	0.50	5.0	0.33			
2 自然換気性能	-	-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	-	1.0	0.50	1.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御	-	3.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.4		
1 機能性		3.4	0.40	4.4	1.00	3.4		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室10㎡/床以上を確保	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-			
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たしている	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観	専有部天井高2.5m	-	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-			
3 内装計画	インテリアパスによる事前検証を実施	4.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材を採用等	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30	-	-	3.5		
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震等級2	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	スプリング防振架台、防振吊金具を採用	4.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート、ビニル床タイル、タイルカーペット等	5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	配管用炭素鋼鋼管、ステンレス鋼管、硬質塩化ビニル管	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性		2.8	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-			
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性			3.1	0.30	3.3	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	3.6	0.50	
1 階高のゆとり	共用部階高:3.9m、専有部階高:3.7m		5.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 共用部壁流さ比 < 0.3、0.3 ≤ 専有部壁長さ比 < 0.5		4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	-		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.70		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEIm=0.74		4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	省水型便器、自動水栓、泡沫水栓		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ポリスチレンフォーム(断熱材)/ビニル床シート(床)/再生クッション(地業)		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OA707		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	防水プライマー		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率=79%		3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪・駐車場、搬入用の駐車場スペースを確保		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリスト、配慮事項過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	